



ごあいさつ

このたび「ひまわり新聞」vol. 13号を発行することになりました。日頃よりの皆様方のご理解、ご支援に心より感謝申し上げます。

未だ終息しないコロナ禍の中で、最前線でご尽力いただいております医療従事者の皆様、次々と変異していく新型コロナウイルスにご対応いただきありがとうございます。関係する全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

引き続き、基本的な感染対策をとりながら、市民の皆様と一緒に、この難局を乗り越えてまいりたいと思います。これからも皆様のお声に耳を傾け、そして丁寧に情報をお伝えし、女性の視点から、皆様に寄り添う気持ちを忘れることなく、問題解決に向けて力を尽くしてまいりたいと思います。今後とも更なるご支援、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

中村みえ



猪口邦子 参議院議員 と 懇談



こども家庭庁

中村：国における子ども政策の柱となるこども家庭庁の設置について、先生のお考えを伺います。

猪口議員：こども家庭庁設置法案は、国の最重要法案の一つとして扱っています。

子どもをめぐる課題は、児童虐待、いじめ、貧困、少子化等、複雑化し多岐にわたっており、多くの省庁が関わっています。

このため、各省庁より一段高い立場から子ども政策を推進する司令塔機能が重要となっていて、こども家庭庁では、子どもの権利利益の擁護や児童福祉に関する事務を一元的に所管するとともに、関係省庁に対して、子どもの視点に立ち、総合調整を行うこととしています。

今後の子ども政策の基本理念として、**全ての子どもが安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、幸せな状態で成長できるようにすることが重要です。**

私は、全ての子どもが健やかに成長することができる社会の実現に向けて取り組んでいます。そして、それは子どもたちのためだけでなく、社会全体の未来への投資であると考えています。

子育て支援

中村：東金市には公立幼稚園が多いものの、預かり保育の完全実施がなされていないため、幼稚園に通うお子さんの受けられる保育と、保育所や認定こども園に通うお子さんの受けられる保育に、大きな格差が生じています。

私は、市に対して、公立幼稚園における預かり保育の完全実施をお願いしているのですが、先生はどの様にお考えですか。

猪口議員：国が昨年末に決定した子ども政策の新たな推進体制に関する基本方針では、こども家庭庁と文部科学省において、幼稚園、保育所、認定こども園の教育、保育内容の基準の整合性を制度的に担保することとしました。

これを踏まえて、学校教育法及び児童福祉法に、両省が相互に協議を行い、幼稚園、幼稚園における教育内容と保育所における教育内容を定める規定を設けて、**幼稚園、保育所、認定こども園といった施設類型にかかわらず、共通の教育、保育を受けることが可能になるよう取組を進めています。**

教育にも保育機能を入れるというのが国の改革方針です。公立幼稚園が預かり保育をしないというのではなく、国の方針に協力してもらう必要があると考えています。

私は、子どもの観点で、子どもの中には「教育」と「保育」という二つの全く別の機能が分かれて存在するのではなくて、教育を受ける部分、存在して慈しんでもらう部分、その両方があるのだと思います。

幼稚園、保育所、認定こども園、どの施設で

あっても、お母さんが仕事を終わって迎えに来るまで、ちゃんと子どもの安全を見ますよというのが市民ニーズであり、そのための施策の充実、質の向上を図ることが必要と考えています。

女性活躍

中村：女性活躍は地域においても重要課題の一つと考えます。たとえば、地域の現状は、女性議員が少ないこと、行政機関においても女性管理職の少ないことなどが課題としてあります。

先生は女性議会人としてご活躍ですが、これまで多くのご苦労があったと思います。

今後の女性活躍について、先生からのメッセージを頂ければと思います。

猪口議員：女性は、我が国の人口の約51%、有権者の約52%を占めています。

男女共同参画は、全ての人が生きがいを感じられる、個性と多様性を尊重する社会を実現するために極めて重要です。また、我が国の経済社会の持続的発展にも資するものです。

地方創生、少子化対策のためにも、男女共同参画の裾野を広げ、女性が地域で伸び伸びと力を発揮し、男性とともに活躍できるようにすることが不可欠です。

そして、女性の活躍には、女性の採用だけではなく、育成、登用が重要であると考えています。そのためには、女性にチャンスを与えるというのはもちろんのことですが、女性職員の育成という今まで多くの男性管理職が経験してこなかった新しいスキルを取得していただく必要もあるでしょう。

男性、女性を問わず、新しい働き方の価値観、違いを受け入れる文化、公正な評価と処遇といった多方面の施策が必要と考えています。



私自身、議会人として、女性が自分の職業をこうやって維持、発展させ、決して途中で頓挫することなく続けるんだという姿を、自ら示さなければならないと思います、自分の政策と議席

を守り抜く努力を、妥協することなく重ねてきました。

女性のお一人おひとりが、小さな改革者として心掛けることで、女性も参加しやすい職業分野が増えていくものと信じています。

猪口邦子チャンネルのご案内



参議院議員 猪口邦子先生のご活躍の様子を YouTube「猪口邦子チャンネル」にアップしています。是非ご覧ください！

<https://www.youtube.com/channel/UCRRtK2c95RifM79Bv4hIG8g>



om/channel/UCRRtK2c95RifM79Bv4hIG8g

中村みえが東金市議会に取り組んでいること

3月定例会一般質問（代表質問）

- ①市長の目指す千葉県子育て環境ナンバーワンについて
- ②新型コロナウイルス感染症対応について
- ③道の駅みのりの郷東金について

こども園化の推進について

質問：東金市第4次総合計画の個別計画である「東金市就学前児童施設の今後のあり方について」において、「正気幼稚園の認定こども園転換は、源幼稚園の統合とあわせて行う」と記載されているものの、計画に遅れが生じていることについて、教育委員会のお考えを伺います。

答弁：計画においては、幼稚園の統廃合による余剰人員を活用することとしていますが、源幼稚園は、4・5歳児の複式1クラス、担任1名のみの配置であったため、廃止に伴う人員では、



正気幼稚園のこども園化は難しく、令和5年度末をもって閉園を予定している東金幼稚園の人員を充てることで、令和6年度予定されている正気幼稚園のこども園化を進めてまいりたい。

私の思い：計画にも明記されているとおり、随時、進め方を見直していくべきです。計画内容の検証及び見直しを適切に行っていただきたいと思います。

質問：今後、丘山・大和・嶺南幼稚園の認定こども園化移行、充足率の低下、施設の老朽化等の課題を抱えている公立幼稚園を、今後どうしていくのか、どうしていくべきなのか、教育委員会のお考えを伺います。

答弁：「東金市就学前児童施設の今後のあり方について」の策定方針を踏まえつつ、計画を上回る急速な少子化の進行、民間事業者の新規参入なども考慮に入れながら、将来にわたって持続可能な、質の高い幼稚園教育を推進していくため、市長部局とも連携を図り、本市全体の幼児教育・保育のニーズを見極めた上で、望ましい幼稚園の再編を行ってまいりたい。



私の思い：市民目線を最優先に、スピード感をもって、幼保再編の推進をはじめとする計画を着実に進めてください。民間移行・こども園化を進めることで、市民の教育・保育ニーズに応えるよう要望します。

文部科学省幼児教育課の預かり保育ご担当者にお聞きしたところ、「多くの子育て世代のニーズに対応するため、安心して子育てできる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的としている『預かり保育』について、可能な限り実施していただけるよう、補助制度も整えています」とのことでした。つまり、幼稚園に通っても共稼ぎが出来るように、女性の社会進出を国全体で応援していくとのことでした。

3歳児の預かり保育についても、財政面で、手厚い制度、補助金があるのですから、これを有効に活用し、切れ目のない子育て支援体制を整えてくださるようお願いいたします。



学校給食について

質問：令和3年度上半期における小中学校の給食費未納件数は250件とのこと。先生方にとっても、未収金の徴収は大変なご負担となっています。

文部科学省の「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」によると、学校給食費の公会計化が望ましいとされており、その効果として、先生方の負担軽減、学校給食費の管理における透明性の向上、徴収における公平性の確保、学校給食の安定的な実施などが掲げられています。

また、令和2年11月に文部科学省が公表した「学校給食費に係る公会計化等の推進状況調査の結果」によると、千葉県内において約8割の自治体が公会計化に取り組んでいます。

そこで、公会計化の導入、子供たちにより良い給食を提供する方策、給食施設のあり方、3歳

児への早期給食提供、地域の特性を活かした給食提供などを議論いただけるよう「学校給食検討委員会」の設置について提案し、教育長のお考えを伺います。

答弁：かねてより給食施設や備品の老朽化が問題となっており、それらの更新の検討は急務と認識しています。令和4年度に設置を予定する、主に「給食施設・提供方式のあり方」を検討する会議の中で、施設の建て替え、修繕、それに付随する必要な事項を検討する予定です。

給食費の公会計化等は、課題として認識していますが、議員がおっしゃるような事柄について議論の場を設けることは考えていません。

なお、より良い給食の提供、強いては、議員ご指摘の3歳児の早期給食提供については、市民の保育ニーズに寄り添い、実施時期を早めるよう、準備等の指示を出している状況です。



私の思い：検討を予定する範囲が狭いのではないかと、また、学校給食のより良いあり方を検討いただける有識者などの幅広い構成メンバーの参画が必要ではないかと思えます。

そして、近年の「食」を取り巻く課題や食育の推進などを踏まえ、子どもたちにとってより良い給食となるよう、今後の給食のあり方、給食の運営方法等について広く意見交換をする検討委員会の設置を要望します。

3歳児の早期給食提供については、具現化に向け、前向きにご検討くださるとのこと。令和5年度当初から、3歳児の早期給食提供、預かり保育を実施していただけるよう、強く要望します。



がんばるお店応援クーポン券について

質問：「第2弾東金市がんばるお店応援クーポン券」事業は、地域経済の回復、市民生活の応援を目的として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、市民全員に一人あたり5,000円のクーポン券を配布する事業で、昨年9月の応援クーポン券（3,000円）に続くものです。

私は、第1弾クーポン券の議会審議において、令和2年度に実施した「高齢者向け見守り宅配弁当」による配食サービスのように、高齢者や体のご不自由な方々に利用いただけるよう、各方面へ働きかけていただきたいと要望しました。

そこで、第2弾クーポン券についても、更なる利便性の向上、特に高齢者の皆さまにとっても利用しやすい環境を整えていただきたいと思います。お考えを伺います。

答弁：第1弾クーポン券については、買い物に支援を要する高齢者や体の不自由な方々は、ご家族、ご親族、ホームヘルパーに買い物を依頼し、利用したケースが多かったと聞いています。

第2弾クーポン券を実施する際は、高齢者の方々の買い物支援のため、市内を車で移動しながら食品や日用品を販売している「移動スーパー」も対象に加え、取扱店舗となって頂けるようお声がけし、市民の方々がより一層、利用しやすい環境を整えてまいりたい。



私の思い：昨年11月から始まりました移動販売は、私も時間を見つけて様子を見に伺っています。

どちらの地域もお集まりになる方々はお顔なじみで、和やかな会話が聞かれます。そして、皆さん楽しそうに、ご自分の目で見て選んでいらっしゃいます。

このように地域の「通いの場」となってきた移動販売においても、がんばるお店応援クーポン券が利用できるように、そして、高齢者の皆さまにとって、より利用しやすい制度となるよう要望します。

TOPICS

求名の桜

毎年感動と安らぎを与えてくれる求名の桜。今年も綺麗に咲き誇り、多くの方々の目を楽しませてくれました。



東金市食生活改善会の中央研修

5月16日にふれあいセンターで、季美の森リハビリテーション病院の川村雄輔先生・川村知里先生をお招きして、転倒予防・腰痛予防の講和、脳トレ体操の研修会が開催されました。非常に興味深く充実した内容で、即実践!!参加された多くの皆さまの声でした。



千葉県交通安全推進隊活動

「交通安全推進隊」は、県民一人ひとりの参加により「交通安全県ちば」を実現するため、県条例に基づき、平成14年度から始まった制度です。



上宿PTAの皆さまと一緒に、通学路での街頭監視や保護・誘導を中心に活動して、地域の子どもたちや高齢者を交通事故から守ってまいります。



千葉県地方議員連絡協議会

5月17日にホテルオークラ千葉で、令和4年度総会が行われました。今年度も引き続き、女性局次長として、地議連の目的に協力し、女性の地位向上と健全なる活動の充実を目指してまいります。



中村美恵